

市民活動支援センター「日進市にぎわい交流館」情報誌

にぎわい news

Vol.30



仕事と家族、
だけじゃない
わたしの居場所



子どもが生まれてから、地域や社会の「こと」が気になるようになつた——そんな声をよく聞きます。

保育園の待機児童、学校の安全、地域のつながり。日々の暮らしの中で、「このままでいいのかな」と感じる場面が増えた。でも、仕事に育児に忙しい毎日では、何か行動を起こす余裕なんてないし、自分にできる「こと」があるのかも分からぬ。

気づいた今が、 はじめどき。

そんなときこそ、頼つてほしい場所があります。市民活動支援センターにぎわい交流館は、「ちょっと気になる」から「やってみよう」への一歩を応援する場所です。活動の情報を知りたい、仲間を見つけたい、相談したい——そんな思いに寄り添いながら、その思いをカタチにする方法を一緒に探していきます。

この冊子では、同じように仕事や家庭でがんばりながら、どんなふうに活動を始めたのかを紹介しています。特別なスキルや時間がなくても、できる「ことはきつとあります。あなたの「気づき」が、まちを少しずつ変えていく力になるかもしれません。まずは、できるところから。あなたの一步を、私たちは応援します。

もくじ

4-12

わたしのためとみんなのためと 市民活動ってどんなこと？

- ・日進岩藤川自然観察会
- ・特定非営利活動法人 幸せつむぎ and にこり日進
- ・NPO法人 ファミリーステーションRin
- ・日進市国際交流協会 (NIA)
- ・特定非営利活動法人 Earth as Mother
- ・NPOにじのイルカ
- ・My Life

13

ちょこっとコラム

- ・わたしの市民活動がはじまったとき

14-21

日進市にぎわい交流館てなにするところ？

コラム

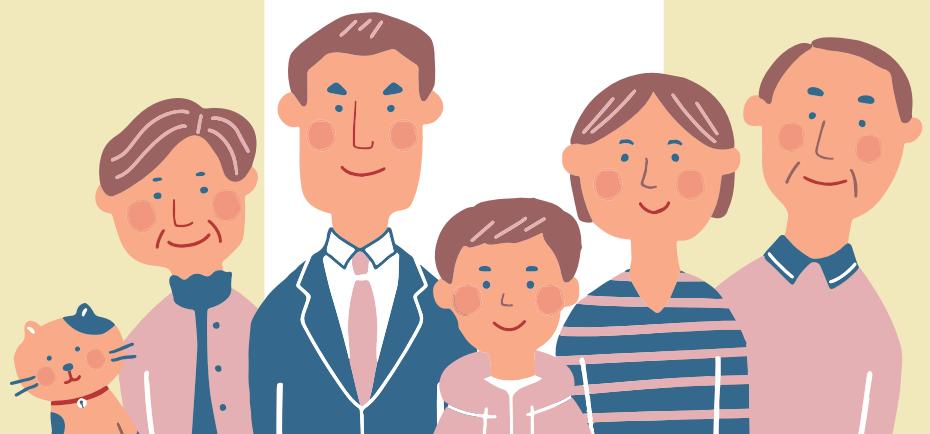
- ・村田の考察 市民活動っておいしいの？
- ・こんにちは 館長です。

22-23





わがましのたゆど



市民活動ってどんなこと?

団体として活動しているみなさんを取材しました。

と わがましのた ゆど





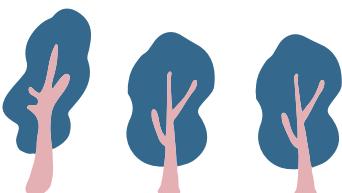
にぎわい交流館には300近くの団体登録があり、
その立ち上げのきっかけはさまざま。

自分の得意なことを誰かのために使えないかと考えた人。
自分の困りごとから社会の不具合に気づき、
解決を目指すために団体を作った人。
誰かの活動を手伝っていたら自分でも団体を作りたくなつた人。

どんなきっかけでも、社会のために活動する「利他」が、
その人自身の人生を豊かにする「利己」につながっています。

市民活動とか、ボランティアとか、なにがおもしろいの？
と思う人もたくさんいるでしょう。

でも、少し足を踏み入れてみれば
「だれかのため」が「じぶんのため」になる、
じつに豊かな時間が流れていることに、
きっと気づいてもらえると思います。





日進岩藤川自然観察会

生き物って不思議でとても面白い。

子どもといっしょにこのまちの自然を感じよう。



参加者大募集中！

毎月第1・第3日曜日に、日進市総合運動公園の野球場側の東屋で集まり、周辺の観察会を開催しています。申し込みはいりません。開催日と時間をお確かめの上お出かけください

【日進岩藤川自然観察会】

日 程：毎月第1・第3日曜日
時 間：9時30分～12時（予定）
参 加 費：100円
服 裝：明るい色の長そで、長ズボン、帽子等

にぎわい交流館
団体紹介ページ



日進岩藤川自然観察会は、25年ほど前から観察会を始め、現在は毎月2回行い、出会った生きものをその都度まとめた観察記録を発信しています。発足以来雑木林の「ゴミ拾い」を続けたり、図書館で「しぜん生きもの図鑑」と銘打った展示をしたり、カエルの生存が危ぶまれると「おたまじやくしの里親」を募って保護につなげようとしたりしています。

「観察会では、自然に親しみながら自然の中を歩くことの楽しさを感じ、日常生活の中でも自然との関わりを意識して地域の生物多様性に関心を持つて生活

前から観察会を始め、現在は毎月2回行い、出会った生きものをその都度まとめた観察記録を発信しています。発足以来雑木林の「ゴミ拾い」を続けたり、図書館で「しぜん生きもの図鑑」と銘打った展示をしたり、カエルの生存が危ぶまれると「おたまじやくしの里親」を募って保護につなげようとしたりしています。

トンボが捕まつたとき、促されて胴体をつまんでみると羽ばたこうとする振動が指先に伝わり小さな命が生きているのを実感しました。その後、見上げた木の上でセミがカマキリに捕食されて

いるのに出会つたりしました。

普段は親子での参加も多いとのこと。「小さな子の観察眼には目を見張るものがある」と話す鬼頭さんたちと一緒に身近な自然の中に隠れている「たくさんふしぎ」を見つけに行きませんか？

日進市の東には東部丘陵と呼ばれるまつた緑地があるのをご存じでしょう。緑地を作る雑木林の中をきれいな川が流れ、大きなため池が水をたたえています。この緑と水が多様な生きものを育んでいます。

その上流には天白川の水源になる最初の一滴が湧き出していることを想像させます。ここに緑と水が多様な生きものを育んでいます。

自然の中に行くと独特的の色や形だけではなく、においやかすかな音、鳴き声に耳を澄ませるなど五感を総動員して生命を感じます。そこから自然への敬意が生まれ、人間も地球上の一生物であることに思い至るかもしれません。



する人が増えるといいな」と話す代表の鬼頭弘さん。

自然の中に行くと独特の色や形だけではなく、においやかすかな音、鳴き声に耳を澄ませるなど五感を総動員して生命を感じます。そこから自然への敬意が生まれ、人間も地球上の一生物であることに思い至るかもしれません。

特定非営利活動法人 幸せつむぎは、

障がいのある人もない人も共に育ち、

歩んでいくことを理念として掲げている

NPO法人です。緑区で「ふつうのおば

ちゃんたち」が集まってスタートしまし

たが、無償ボランティアでは限界があり、

雇用を生み出し持続可能にするために

法人化しました。

現在は「うちの近所でもやつてほしい」

という「一々に思え、緑区・日進・大府・

みよしの4事業所を運営しており、にぎ

わい交流館にはその1つ「幸せつむぎ

andにこり日進」が登録されています。

andにこり日進では、重症心身障

がい児、医療的ケア児を対象とした支援

をしており、アート活動を療育に取り

入れています。そして、そこで描かれた

作品は、愛知県美術館などに展示し、



特定非営利活動法人 幸せつむぎ andにこり日進

どんなに重い障がいをかかえていても、

誰もがこのまちで普通に暮らしていけるように

多くの人々に鑑賞されています。

取材の日は、名古屋学芸大学の学生さんと子どもたちが、部屋いっぱいに

画材を広げ、アートを楽しんでいました。

思いのままに“描いて”いきます。円筒形

の発砲スチロールに色付けするのですが、

そんな前提是「シラナイヨ」とでも言う

ように、子どもたちはまず絵の具の感触

を確かめ、それを楽しみ、次に自分の

洋服や手や足を彩っていきます。まさに

自由。なんの作為もなく、ただただ色を

楽しんでいました。鼻にはチューブが

つながり、発語はなくとも、「楽しい！」

という感情は伝わってきます。

「ここ」で過ごすのは10時～16時。保護者の方は、その間お仕事に出られたり、

おうちでご自分の時間を過ごされたり

と、様々です。他にご兄弟がいる場合は、

いつも待たせたり我慢させたりしがちな

その子に集中して気持ちを傾けることも

尋ねると「1歳未満から大人まで、その

人に長く関わること。かけがえのない仕事だとありがたく思っています」と、まっすぐな答えが返って



児童発達支援のお仕事は大変だろう

な、という先入観があったのですが、

西尾さんはじめスタッフのみなさんは

とても明るく軽やかで、生き生きとお仕

事されていました。鮮やかなアートと

子どもたちにも元気をもらい、障がい

のある人を健常者が支えるという一方

向の関係ではないことに改めて気づかせてもらつたひと時でした。



スタッフ大募集中！

看護師・保育士の資格をお持ちの方、資格がなくても子どもに関わる仕事に意欲のある方、一度「andにこり日進」のお部屋をご覧ください。

【特定非営利活動法人 幸せつむぎ andにこり日進】

ところ：日進市栄二丁目202番地

電話：0561-56-4555

メール：nishio.shiawasetsumugi@gmail.com

特定非営利活動法人
幸せつむぎ
ウェブサイト

andにこり日進
instagram

QRコード

幸せつむぎ
instagram

QRコード

ある夏の日、子ども食堂を開催すると伺い、食事準備のあわただしい中、取材にお邪魔しました。この日の参加者は6家族、1歳から大人まで23人。スタッフ

ある夏の日、子ども食堂を開催すると伺い、食事準備のあわただしい中、取材にお邪魔しました。この日の参加者は6家族、1歳から大人まで23人。スタッフ

ある夏の日、子ども食堂を開催すると伺い、食事準備のあわただしい中、取材にお邪魔しました。この日の参加者は6家族、1歳から大人まで23人。スタッフ



NPO法人 ファミリーステーションRin

赤ちゃんから大人まで、

地域で切れ目のない子育て支援を

を加えて総勢29人の大盛況。メニューは焼肉、ポテトサラダ、キャベツの千切り、ゆでブロッコリー、お味噌汁、ごはん。お米は1升炊きました。デザートはポンデケージョという焼き菓子です。

「さあさあごはんの時間ですよー、みんな順番に手を洗ってね」とスタッフが声をかけると、それまで思い思いに遊んでいた子どもたちがお母さんと一緒に洗面台に行つて手を洗い、配膳を待ちます。和室二間に備えられた座卓に着席して、みんなで手を合わせて「いただきまーす」。わいわいとぎやかに、そして和やかに食事が進みます。

久しぶりに参加したというお一人は、11歳を筆頭に5人の子育てをしている元気なお母さん。5人の子育てはいかがですかと訊くと、「毎日楽しいです」と笑顔で答えてくれました。お話を聞いている間、一番下の1歳のお子さんは、お隣に

座っている別のお母さんの膝に上ったり、抱っこしてもらったり。その姿はとても自然で、普段から助け合える関係ができることがわかりました。もうお一人は10歳5歳8歳のお母さん。「ここはゆっくりさせてもらえてありがとうございます。毎回来ています」と言います。子育て真っ最中の毎日が矢のように過ぎていく中、つかの間の癒しの時間になつてているのだと思いました。

「始めたばかりの頃は利用者が集まらず、苦労しました。18歳未満は無料なので、資金は助成金をいただいて賄っています。赤字は法人の会計から穴埋めしています。毎回のメニューを考えることも大変かな」と話すのは理事の浅井裕子さん。「来てくれた人の『おいしい』『楽しかった』という声がやりがいですね。今後も継続していくけるようがんばります」。

Rinさんのスタッフは、自身も利用者だったという人が多く、子育て支援の人的資源の循環がとてもうまく回っている例だと思います。地域での切れ目のない子育て支援を目指して、明るかにしなやかに事業を開拓している姿に、未来への希望を感じました。

わたしたちこんな団体です

指定管理者として日進市から委託を受け、にっしん子育て総合支援センターの運営を担うほか、子育て支援者養成講座を開催するなど、子も親も自立していきいきと生活できるまちを目指して活動しています。

【NPO法人 ファミリーステーションRin】

ところ：日進市香久山二丁目601番地 Chip in 香久山203号
(Rinのおうち)※子ども食堂の開催場所ではありません。
電話：052-838-6868 メール：rin@npo-rin.org



日進市国際交流協会 (NIA)

確かな日本語力とともに、

日本の文化や国民性を少しでも伝えられたら



日本語は、世界で最も難しい言語のひとつとされています。3種類の文字（ひらがな、カタカナ、漢字）の存在、多様な敬語の使い分け、表現のあいまいさや主語の省略、豊富なオノマトペや同音異義語などに加え、文化的な背景を理解する必要もあり、日本語を母語としない学習者にとっては身に付けるのが大変だと言われます。

また日本では、急速な少子高齢化による人口減少と働き手不足で、グローバル化が進んでおり、それは日進も例外ではありません。外国人の増加に伴い、日本語を学びたいというニーズも増え続けています。

にぎわい交流館で毎週水曜日（3月と8月はお休み。年間36回）開催されるにほんご教室では、日本語を学びに来る多様な国の外国人学習者と日本語ボランティアでとてもにぎやかです。お話しやテキストを読むだけでなく、イラストや、小さなホワイトボードを使って意思疎通を行います。教室はほとんどがマンツーマン。教える方も教えられる方も、とても生き生きと楽しそうです。

「日本人は、お茶を淹れた時に『お茶を淹れました』とは言わず『お茶が入りました』と言います。それが日本人特有の相手に気遣いをさせない自然な態度ですよね。本当は言語を教えるだけではなく、そういう国民性や文化も伝えたい。

そのニュアンスを伝えるのはなかなか難しいですが」と話すのは、日本語部会の加藤修子さん。「学習者の中には、正しい日本語を話せるようになるために、文法もしっかりと勉強したいといった人が多いです。また、日本語検定の合格を目指している人もいます。合格したら一緒に喜びを分かち合います」と言います。活動していくやりがいを感じるのはどんな時ですかとの問いには、「教えた構文を使って自分の言葉として話しているのを目の当たりにした時、この上ない喜びを感じます」とうれしそうに話してくださいました。

日進市国際交流協会には若手の会員

も増え、ボランティアの担い手も次々と育っているようです。学生時代は英語が得意だったんだけど…外国人人と交流してみたいな…そんなことを思っている

人、一度にぎわい交流館2階にある

NIAさんの扉をノックしてみてください。きっとできな出会いがありますよ。



ボランティア募集中！

異文化交流を通して、お互いの国の文化を理解して、共に仲良く生活するためにボランティア精神のもと、さまざまな活動に取り組んでいます。

【日進市国際交流協会 (NIA)】

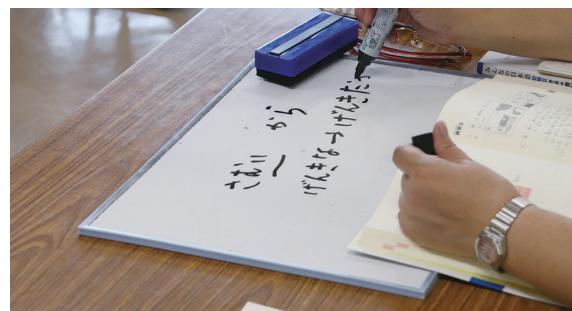
ところ：日進市蟹甲町中島 277-1
(にぎわい交流館内)

電話：0561-73-1131

日進市
国際交流協会
ウェブサイト



にほんご教室は令和8年度から土曜日も開催の予定





特定非営利活動法人 Earth as Mother

安心安全に食べられる作物と

地球環境にやさしいコミュニティをつくる

夏の終わりのある日 取材のため本郷地区にある畑にお邪魔しました。里芋の花が咲き、キュウリやナスなどの夏野菜が育つ中、畑作業のボランティアに来ていた野菜づくり体験コースの参加者のみなさんが、堆肥を運び野菜の株元に撒いたり、大きく実ったキュウリやピーマン、ナスなどを収穫したりしていました。

「ファーリーは人が育ちあう場」と話すのは副理事長の村野政章さん。「一粒の種もみが芽を出しどんどん大きくなつて稻穂が実り、収穫後の稻藁を圃場に混ぜ込むまでの循環を体験することは、記憶

特定非営利活動法人 Earth as Mother は、「未来の子どもたちが安全で安心して食せるおいしい作物づくりを中心とした農業の推進と地球環境にやさしいコノニティを創造する」をテーマに全国規模で活動している団体です。日進市では、令和元年度にESD総合共育プロジェクトチームを発足し、日進市委託事業「オーガニック農業体験事業」で市民向けに米作り体験と野菜作り体験の機会を提供しています。

し 収穫したものの一部が立地市の学校給食に使われる。これぞ地産地消。Earth a Mother が謳う『真農業』の意味が少しだけわかつた気がしました。

参加者のみなさんに田んぼや畑の循環を五感で感じてほしいという思いは、食育にもつながっています。「愛知県の伝統料理である五平餅、酢味噌そうめん、串饅頭などを料理教室で教えています。2～3才くらいから親と一緒に参加している子もいます。スーパーで見る大根やにんじんには葉っぱがないけれど、本当はそれにんじんには葉っぱがないけれど、本当はそれも食べられる。農薬がかかっている

に残りDNAに刻み込まれ、それは生きる力につながります。ぜひたくさんの親子や子どもたちに体験してほしい」。

A young boy in a red shirt and blue shorts, wearing a grey baseball cap, is kneeling in a field of large green taro leaves. He is holding a long, white, tuberous root, likely a taro root, which has some yellow and brown spots. The background shows more of the lush green plants.

A photograph showing a family of three harvesting taro leaves in a lush green field. A man in a plaid shirt and a woman in a black jacket are bending over, each holding a large green plastic tub filled with harvested taro leaves. A young boy in a white t-shirt and blue shorts stands between them, also holding a green tub. The field is filled with large, broad taro leaves.

A group of approximately ten people are gathered in a field. In the center, a person wearing a pink long-sleeved shirt with a colorful circular logo on the back and dark pants is gesturing with their right arm extended towards the horizon. They are wearing a light-colored hard hat. To their left, another person in a straw hat and dark clothing is also looking in the same direction. The group appears to be engaged in a discussion or observation of something in the distance. The background shows a flat landscape under a clear sky.



野菜は嫌かるのに、化学肥料を使わず無農薬で育てて自分の収穫した野菜は『おいしい』と言つて食べます。そんな体験をたくさん積んでほしい」と話すのは、理事で教育スタッフの黒田瞬未(るみ)さん。

畑には1歳になつたばかりの子どもを連れた若い両親が参加していく、「触つたり匂いを感じたりするなど、畑に来て様々な体験をさせてあげたい」と話していました。わざわざ遠くに出かけなくていい、まだ残る自然や田畠を体験できるのは日進市ならではの子育てです。Earth as Motherの活動に参加したこの子が、生きる力を身につけ、自分の「ふるさと日進」に誇りと愛着を持ちながら健やかに育ちますように。そんなことを願つた夏の日でした。

わたくちもこんな団体です

完全オーガニックの昔ながらの農法を体験・実践
していただける講座などを開催しています

【特定非営利活動法人 Earth as Mother】
メール: office@earthasmother.com

介護美容の専門学校で学んだ3人が

「介護美容をもっと知つてほしい」という思いで立ち上げた団体です。メンバーは看護師・エステティシャン・介護福祉士を本業として働いています。

本紙を発行するにあたり、施術の様子を取材させていただきました。「ネイルなんて初めてよ」と、スタート時は少し緊張した様子の利用者さんでしたが、手をオイルトリートメントしてもらつて、優しい声で話しかけられている間に緊張がほぐれていきます。

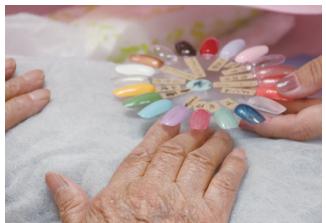
使用するのは、身体にやさしい水溶性のマニキュア。「どれにしようかしら。あま



NPOにじのイルカ

きれいになって心も明るく。

介護美容で介護予防を。



いました。

「ネイルは身体の一部として持つて帰つていただけるので、色がついている間はずっと楽しんでいただけて、うれしいです」と話すのは、代表の彦田七重さん。オイル

トリートメントやネイルアートでみなさんの表情が明るくなつて、元気になられるのが伝わってくるので、逆にその元気をいただいているのだそうです。「介護美容は介護予防にもつながります。祖父母へのプレゼントなど、家族のイベントに取り入れてもらって、家族の輪が広がると

うれしい」。

「今後は他の団体さんとコラボするなどして、活動のフィールドを広げていきたい」と、夢は広がります。

自分の得意なことや好きなことが、誰もが生き生きと暮らせるまちづくりにつながるとしたら。そして、それを一人一人が実践できたら、最高にすてきなまちになる。うきうきと帰途につく利用者の方の後ろ姿を見送りながら、そんな未来が思い浮かびました。



コラボ団体大募集中！

美容を通して「触れ合いによる安らぎと結びつき」を感じていただきたい。「外観を整える」ことで明るい気持ち、前向きな気持ちをもち、社会参加ができるようになり、ご本人様の幸福感だけでなく、ご家族の笑顔も増える様なサポートをしたいと考えています。

【NPOにじのイルカ】

メール：kazu.nana.s@gmail.com





MyLife

自分の人生を生きるには、

自分で考えて答えを出し続けるしかない



「子どもに関する問題を大人しかいな場で話し合って決めるのっておかしいんじゃない？」その違和感が、MyLifeという団体を立ち上げたきっかけでした。MyLifeは大人も子どもも互いの意見や思いを共有し、一人一人の個性を理解し、探究することを目的として立ち上った、未成年だけ構成された団体※です。現在のメンバーは4人。中学生3人高校生1人で構成されています。

「人生を生きる上で、対人関係で悩んだり問題を抱えたりすることは誰でもありますよね。自分は自分らしさを軸に人生を生きられているけれど、そうできなくて悩んでいる同年代の人もいる。そういう人に僕たちのイベントに来てみて伝えたい。自分だってまだまだ経験不足なので何かを教えてあげることはできないです。でも、仲間と一緒に考えてることで、殻を破るきっかけにできると思います。最後は自分で考えて答えを出すしかないんだけど」。そう語るリーダーの久木日向多さんは、若干16歳の高校1年生。子どもから提示されたテーマに沿って一緒に考えたり意見を交換したりするイベントを運営しています。自分の祖父くらいの人の参加もあり、その意見について、「正直」「頭いいなあ、常識に縛られ過ぎている」と感じることもあるけど、反発はないです。そもそもその時代の価値観なので」と余裕の構え。多世代だからこそ見える多様な考え方があり、それを見聞きできることがとても楽しいと言います。

活動のやりがいを尋ねると、「イベントのアンケートで『視野が広がった』とか



『いろんな人の話が聞けてよかったです』とか、褒めてもらえるとやはりうれしいし、やってよかったと思思います」と率直な答えが返つきました。

今後の展望としては、「あと2年で成人なので、未成年(子ども)が開催するイベントではなくなる。自分の立ち位置やイベントのあり方などをソフトしながら、これからも仲間と一緒に続けていたら」と意気込みを語ります。

読者の方へのメッセージは「子育てなどに悩んでいる人、いろんなところに参加してみてほしいと思います。もちろんMyLifeにも。ぜひ僕たちのイベントに来てみてください!」とのこと。若い人の意見や考え方に対する人、参加してみてはいかがでしょうか。発想の転換や新たな発見があるかもしれませんよ。

※便宜上、対外的な代表は保護者の方になっています。

わたしたちこんな団体です

instagram



大人も子どもも互いの意見・思いを共有し、一人一人の個性を理解し、探究するために、講座等のイベントを企画・運営しています。

わたしの市民活動がはじまったとき



にぎわい交流館のスタッフになつて6年が経ちました。6年前の私はまさか自分が市民活動に関わるとは思つておらず、それどころか、市民活動という言葉があることすら知りませんでした。そんな私になにが起こつたのか。

きっかけは「落語」です。

子どもが生まれてから、大好きな映画を見たり小説を読んだりする時間が多く、現実とばかり向き合うのが辛くなってきた頃に、落語なら家事をしながらきける!…ということに気づいて、ドはまりしました。どれくらいはまつたか…と、推しの落語家に出演を依頼して子ども向けの落語会を主催してしまったほど。そして、その落語会の開催チラシを公共施設に配架して欲しい、という一心で市民活動団体としてにぎわい交流館に登録しました。それが、私の市民活動の始まりです。

初めは、「落語が好きだから」という理由しかありませんでしたが、団体登録をするためには、この活動が日進市にとってどんな良い影響をあたえるのか、ということを考え

る必要があります。そこで「子どもの想像力を養う事ができる」という落語の良さを再発見し、自分の好きなことが誰かのためになることがわかって、とても嬉しかったのを覚えています。また実際、落語会に来てくださった方から「子ども向けのこういうイベントをさがしていた」「ここで落語を見てから子どもが落語が大好きになった」という声をいただくことが何よりも嬉しかった。

その後、活動をしていく中で「子どもの権利」というものに出会い、それを啓発するために、さらに1つ団体を立ち上げ、そこからまた様々な人のご縁がつながつて全部で4つの団体に所属することに。その間、にぎわい交流館のスタッフにならないかとお声掛けいただき、今にいたります。

わたしが団体登録した動機はいささか不純ではあるのですが、それでも、登録したことで「社会にとってどうか」という視点を持つ事ができ、おもしろい人たちと出会えたことは、わたしの人生の中でも大きな財産になっています。

日進市にぎわい交流館スタッフ
黒田麻衣子



そもそも

日進市にぎわい交流館で なににするところ?

日進市の公共施設の一つ
「日進市にぎわい交流館」
を知っていますか?

日進市役所の東隣
に20年前からある
のですが、その存

在自体を知らない
人や、知っている
けど何をして
いるかは知らない
という人は多い
と思います。

この冊子を手に
とつてくださった
みなさん。

にぎわい交流館の
使い方を知って、ぜひ
利用してみてくださいね。



連(れん)
の
ヤモリさん

わたくしと一緒に
みてもよし。
よしもよし。

この冊子を手に
とつてくださった
みなさん。

にぎわい交流館の
使い方を知って、ぜひ
利用してみてくださいね。

超

基本情報



場所

日進市役所の東隣

開館時間

8:30～21:00

市民サロン 8:30～20:00・会議室等 9:00～20:30

開館日

土・日・祝日を含む毎日

年末年始（12月28日～1月4日）は休館

役割

2005年11月19日に開館して以来20年、
市民活動支援・国際交流・大学交流・市民交流を
4本柱に、情報受発信のプラットホームとして
運営しています。



市民活動支援

国際交流

大学交流

市民交流



休憩する。



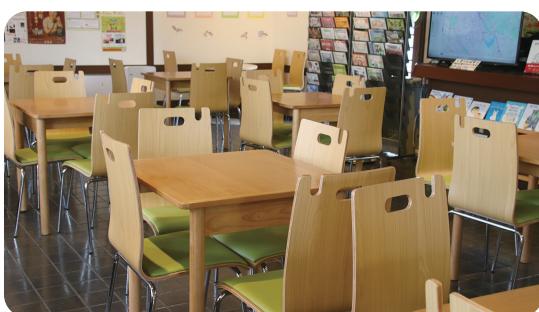
1階のサロンはどなたでもご利用いただけます。市役所から出発するバスの待合所としてはもちろん、お友達とのおしゃべり・読書や勉強・待ち合わせにもご利用いただいているランチの販売があるときなどは多少

混雑しますが、基本的には時間制限もなく、持参したものの飲食もできます。

Free WiFiとコンセントもご利用いただけます。

夏は涼しく、冬は暖かくしてお待ちしています。

※大声や占領など、他の方に迷惑と判断した場合は、お声をかけさせていただくことがあります。



本や雑誌も置いています。



小さなお子さんと一緒に楽しめる絵本や、にぎわい交流館スタッフおすすめの書籍や雑誌などを置いています。



(※)喫茶のご注文は16:00まで。主にコーヒーと紅茶のご用意があります。諸事情により中止している場合もあります。

ランチを食べる。



市民活動団体が「ワンディーショフ」としてランチ・喫茶の営業をしています。手作りでおいしいランチやコーヒー・お菓子でくつろぎの時間を過ごしてくださいね。

情報をさがす。

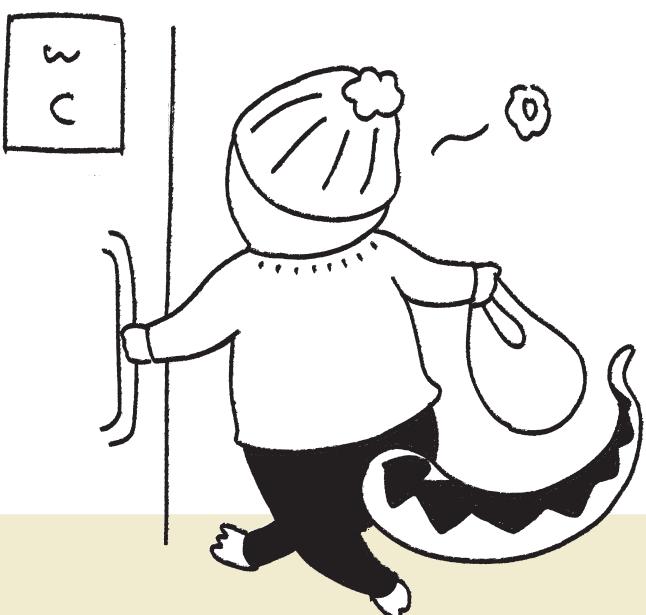
日進市や市民活動団体などが開催するイベントなどのチラシを探すことができます。ボランティアを募集している団体もあります。

日進市にどんな団体があるのかがよくわかるので、ふらっと探索してみるとおもしろいですよ。



トイレだけでも お気軽にどうぞ。

あかちゃんのオムツ交換台もあります。



団体登録するでキスーと

会議室を利用できます。

日進市にぎわい交流館には、4つの会議室があり、無料でご利用いただけます。



1と2をつなげると、一番大きい部屋になります。定員は51人。講座や講演、ワークショップなど、たくさんの人を呼ぶイベントの開催などにもよく使われます。

1と2はアコードィオンカーテンで仕切ることができる、隣の音が気にならなければ、どちらかだけを予約することもできます。

会議室1・2

唯一、1階にある会議室です。階段を上る必要がないため、高齢の方や、身体の不自由な方、絵画などの大きな道具を使う団体に人気があります。窓が大きく開放感があります。

定員は24人です。

会議室3

定員は16人と一番狭いですが、靴を脱いで入れるのでリラックスした雰囲気で使用することができます。

子育て支援や学習支援など、子どもと一緒に使用する団体に人気があります。



和会議室



窓口でお問い合わせください。

日進市にぎわい交流館ウェブサイト



団体向け講座・相談を 受けられます



団体のスキルアップや困りごとの解消のための講座を開いています。「こんなことを教えてほしい」という団体の声から生まれた講座も多くあります。

団体向け講座

日進市の市民自治活動推進補助金に応募することができます※。
その他、各種補助金の選び方や申請書の書き方、他団体とのコラボなど、活動に関する事なら、なんでもご相談いただけます。

※市民自治活動推進補助金事業は
年度ごとに実施されますが
その年度の予算成立を前提としており
毎年必ず実施されることは限りません。

マーケット ワンディシェフ

団体の得意なことを活かして、
物品の販売や飲食物の提供ができます。

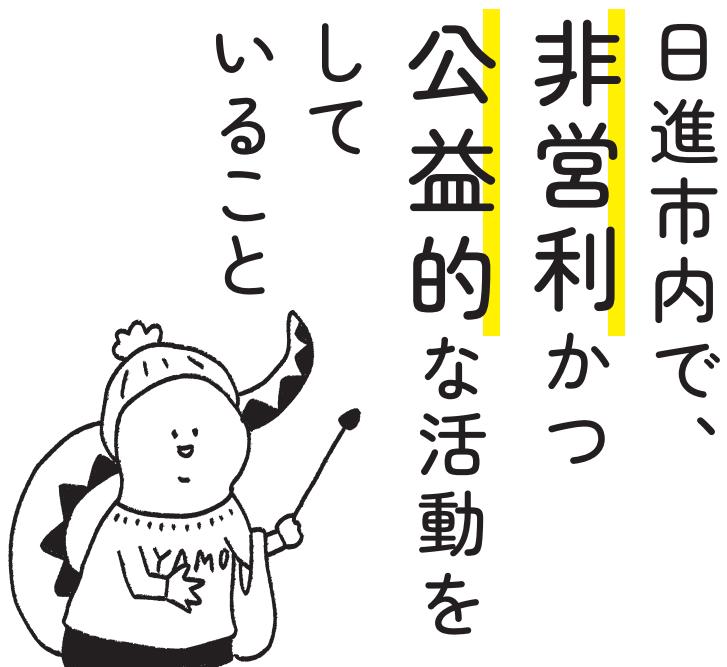


活動相談

団体登録するとできることは他にもあります。詳しくはウェブサイトをご覧いただくか、

団体の登録方法

登録条件



非営利とは

利益を目的としていないということです。
イベントの参加費や、会費などを徴収することはで
きますが、たくさんお金が集まったからといって、
団体メンバーで分配することはできません。経費を
差し引いて残った利益は、次の活動資金として使
う必要があります。
ただし、あらかじめ予算として計上していれば、人
件費を支払うことはできます。

公益的とは

自分たちだけのためではなく、たくさんの人のためにな
るということです。
例えば、友人知人だけ集まって楽しむための団体は登録
できません。友人知人の集まりから始まったとしても、
入会したいという人がいれば受け入れるとか、その活動
が不特定多数の人のためになっていれば「公益的」とい
うことになります。
(障がい者支援や高齢者支援など、支援・活動の対象が
限定されていることは問題ではありません)



登録の手順

1

どんな活動をしたいのかを、
にぎわい交流館スタッフが
ヒアリングします。

2

団体登録申請用紙のほか、
会則・予算書・決算書・
代表者の身分証明書のコピーなどが必要です。
詳しくは、ヒアリングの際にお話しします。

3

書類を提出する

書類の提出から10日～14日で
審査をさせていただき、
登録要件に当てはまることが
認められれば登録となります。



にぎわい交流館に相談する

よくある質問

ひとりでも団体をつくれるの？

団体メンバーの人数は問いません。
ひとりでも団体として登録できます。

企業や会社、個人事業では
登録できないってこと？

営利を目的とした活動とみなされるため
基本的には登録できません。
しかし、社会貢献(CSR)部門があり、
会計が本体から独立していれば
登録していただけます。
その場合は、団体名の一部に
企業や会社、個人事業の名称が
使われていても構いません。

日進市民じゃなくても
登録できるの？

他市町に住んでいる人でも登録できます。
ただし、主な活動範囲に日進市が
含まれていること、
日進市民のためになる活動をして
いる場合に限ります。

村田の考察 市民活動って おいしいの？



村田 尚生（むらた・たかお）さん／愛知学院大学 総合政策学部 総合政策学科・教授

特定非営利活動法人まちの縁側育み隊副代表理事の他、日進市環境基本計画の策定に携わった市民によって結成された特定非営利活動法人「まちづくり」を専門的職業としている里山研究に力を入れ、特にきのこ類に対する思い入れが強く「きのこ博士」の異名をもつ。

「市民活動」と四文字熟語で書くと、なんとも堅苦しいですね。「しみんかつどう」って書くと少しやわらかい。私自身は「まちづくり」を専門的職業としているのですが、これも「街造」と書くとやや堅苦しい。ここでは、「しみんかつどう」（かつどんではない）っておいしくいただけるのかについてお話ししていくたらと思います。

「しみんかつどう」をしている人に、きっかけを聞くと、結婚して子どもが生まれたとき、今の環境や社会や行政や政治の問題に気付いたのが始まりです、と答える人がたくさんいらっしゃいます。生まれてきた子どものために何とかしなければ、と一念発起された。

そこから10年、20年と続いている人をみると、ある特徴があります。それは、「しみんかつどう」をおいしくいただけた人です。

ではどうおいしいのか。

「市民活動」と四文字熟語で書くと、なんとも堅苦しいですね。「しみんかつどう」って書くと少しやわらかい。私自身は「まちづくり」を専門的職業としているのですが、これも「街造」と書くとやや堅苦しい。ここでは、「しみんかつどう」（かつどんではない）っておいしくいただけるのかについてお話ししていくたらと思います。

「しみんかつどう」をしていて、何度もできないと無力感に苛まれているとき、誰かに相談してみようと少し動いただけで、次に何をすればよいのか、誰をたよればよいのか、次から次に目の前が明るくなっていく。少しずつ自分自身が成長し、いつの間にか相談される側になり、支援することができるようになっている。

3つ目は、住んでいるだけの場所がほつとできる居場所になるおいしさです。ベッドタウンでの都市的な暮らしの中で、まちで会った人とあいさつさえすることさえなかつたのが、どこに行つても知り合いにあって、まちの情報

1つ目は、人とつながるおいしさです。一人で悩んで、おかしくなりそうなどきに、同じ悩みを共有する人や、助けてくれる人に出会ったり、場合によつては酒食をともにして本当の意味で美味しいつつたり。

2つ目は、成長できるおいしさです。何もできないと無力感に苛まれているとき、誰かに相談してみようと少し動いたことで、まわりが動き、うまくいけば行政や政治が動く。結果的に、このまちが少しずつだけど良くなっている。

ここでお話ししたことは、ファイクションではありません。私が知っている「しみんかつどう」をやっている人の多くが経験していることです。少しでも、「何かの問題に気付いてしまった」という人は、「どうせ何もできないから」とか、「市役所に任せておくしかない」とあきらめないで、「しみんかつどう」をはじめてみませんか。あなたの人生に潤いをもたらす、おいしいの連続がまつっていると思います。

をおしゃべりする。どこに何があり、どの季節にどんな楽しみがあるのか。美味しいランチが食べられるお店は？子どもが安心して楽しめる公園は？…。

最終的なおいしさは、最初に感じた

ここにちは

館長です。

なことじやないつすよ」と謙遜ではなく本気で思つていました。

ただ、少し気になることや、こうだつたらもつといいのになど思うことに、自分の好きなやり方で少しずつ関わらせてもらうご縁があつた。すると、そこで素敵な仲間と出会えて、どんどん楽しくなつていつて、それが今日まで続いているのです。ただそれだけ。

37年前、家族の転勤で、地縁も血縁もない日進に引っ越ししてきました。当時、娘は1歳で、知り合いゼロの土地でのワンオペ育児。子どもは可愛かったけれど、やはり孤独でした。そんな時に少しお話しするようになつた公園のお砂場友だちに、子育てサークルを紹介してもらつたのが、わたしの市民活動の始まりです。そして、その子育てサークルのお世話役から、子育て交流会実行委員会の委員長を任せられ、子育て情報新聞を仲間と毎月発行し、日進市環境基本計画の策定委員になり、子どものまちづくりへの参画のサポートをし、環境系NPOの理事や事務局の仕事をし、市民活動センター設立準備会のメンバーになり、今は「にぎわい交流館」と名前がついたそのセンターで館長をしています。

こんな風に書き連ねると、なんだか大層立派な人物のように思われるかもしれませんのが、全くそんなことはないのです。私自身は高邁な思想や溢れる情熱してゐるのね、えらいねとか言われても「いえいえ、市民活動なんてそんな立派

寺田裕美（てらだ・ゆみ）
／日進市にぎわい交流館館長

2020年、にぎわい交流館館長に就任。その後すぐにコロナ禍となり、右も左もわからないままなんとか業務をこなす日々が始まる。市民として環境活動等にも参加していたが「中間支援者」としての視点でまちづくりを考えるという新たなフェーズに突入している。

これを読んでくださつているあなたが、忙しい日々の中でも何かに気づいて、「こうなればいいのに」と思うことがあるとしたら、気負わずにちょっと動いてみられるといいなと思います。自分の好きなことや得意なこと、興味があることを活かせると楽しいですよ。きっと、仕事や家族以外のかけがえのないつながりや、これから自分を支えてくれる宝物のような出来事に出会えますよ。

取り組みたいことが見えている人、何から始めたらいいかわからない人、市民活動って何?って思つている人、どなたでもいつでも会いに来てくださいね。にぎわい交流館で待つています。

編集後記

この冊子の発行にあたり、元気に活動している団体のみなさんのお話を聴きました。どの人もそれぞれの持ち味を活かし、自分流にいきいきと活動していらっしゃって、聴いている私もうれしくなったり、やる気が出たり。とっても楽しかった。「まちづくり」とか言っちゃうと、いきなり遠くにいる誰かが何とかしてくれることというイメージがあるかもしれない。でも、これを読んで、自分らしく暮らすことや自分らしく生きることと「市民活動」や「まちづくり」は矛盾なく存在すると思って、「こうなるといいな」「少しやってみようかな」って動き出す人が、一人でも増えるといいなと思っています。私がお会いした人たちのように。

(寺田)

にぎわい交流館にはよく、ヤモリがやつてきます。昔からヤモリは「家守」といわれ、その家を守つてくれる縁起のいい生き物だとされています。「日進市にぎわい交流館でなにするとこ?」のコーナーに登場した「常連のヤモリさん」はそんなことが理由で生まれたキャラクターです。「なんとなく近寄りがたい」と思われるがちな当館ですが、少しでも親しみを持ってもらえるといいなと思います。

(くろだ)



ランチやマーケットも 開催しています。

登録団体のみなさんによる手作りのランチや
それぞれの得意を活かして作られた品々が並ぶマーケットです。



喫茶も
あります。



コーヒー・紅茶がございます。
お休みしていることもありますので、ご了承ください。

SNSで発信しています。
ぜひフォローしてくださいね！



本誌に関する ご感想大募集！

本誌は、市民のみなさんに日進市にぎわい交流館のことを知っていただるために、日進市にぎわい交流館のスタッフが、企画から取材、誌面のデザインまで行って作成しています。本誌を読んでみてどのように感じたか、ぜひ教えていただけると嬉しいです。よりよい情報発信に繋がるよう、今後の参考にさせていただきます。

アンケートフォーム



お答えいただいた方の中から抽選で5名さまにQUOカード(500円分)をプレゼントします。
※当選の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。

応募締切：2025年12月31日